

宇電懇 ニュース (号外)

1978年 7月 5日

事務局 = 東京天文台宇宙電波部

明けまして おめでとうございます。 年頭にあたり、皆様に 明るい
ニュースをお伝えできるところを 大変うれしく思います。

昨年暮れの 29日夜、東大経理部 から昭和53年度予算の内示が伝えられ、
待望の「大型宇宙電波望遠鏡」の設置が認められることがほぼ確定である
ことがわかりました。 まことに 御同慶の至りに存じます。

金額は未定ですが、設備費総額は 要求(約88億円)にかなり近い金額
が期待されます。 4ヵ年計画の初年度は 約5億円(土木・建築費は別枠)
です。 人員は 初年度純増 3(教授・助教授・事務官各1)・振替3(助手2、
技官1) 計6名で、東京天文台付属施設「野辺山宇宙電波観測所」として
出発の見込みです。 総人員については 年次ごとに増員要求をだすことにな
り、運営費とともに、今後の努力が必要です。

これからがまた 大変です。 皆様の 一段のご支援をお願いします。

宇電懇 シンポジウム「銀河の構造と進化」 1月31~2月2日 於 東京天文台

- プログラムが右のとおり決まりました。 多数御参加下さい。
- 旅費について： 総研Bより 約50万円を出していただくことになっております。
スピーカーの方は 印鑑を御持参下さい。 スピーカーでない方で特に旅費の補
助を御希望の方は、1月20日までに 世話人へ お申し込み下さい。
- スピーカー へのお願い： 名古屋での学会における 宇電懇 informal meeting
での申し合わせのとおり、当日用いる 図や表 を予め 50部ほど御用意
下さい(青やきで可)。 討議を有効に進めるため、ぜひ御協力をお願いします。
なお シンポジウムの 集録を作りまゐるので、終了後原稿をお願いしまゐる。
- 新しい 電波観測所の 運営について： 今春より 建設が始まる「野辺山宇宙
電波観測所」(仮称)は、日本で初めての 大型宇宙電波観測所であるだけで
なく、東京天文台付属 といへば 全国的共同利用委員会をもつ 天文では初めての
「共同利用施設」でもあります。 どのような運営・体制によって 最も有効にその
機能を発揮し得るか、 初2日夜の 討論に 各分野からの 積極的発言を期待します。

宇宙シンポジウム「銀河の構造と進化」プログラム

(・当日、多少の変更の可能性があります。)
(・R = レジュメ ; C = コメント)

・ 1 日 (9^h30^m A.M. より)

- ・ イントロダクション (海部) 30 分
- R・星の種族・分布・運動・存在比 など (寿岳) 60 分
- C・銀河中心付近の星の分布 (舞原) 10 分
- R・銀河系外の星の観測 (岡村) 40 分
- C・銀河中心部での星の形成 (若松) 20 分
- C・高速度星の三次元的空間運動 (吉井・斎尾) 15 分
- R・銀河系内のガスの観測 (福井) 60 分
- C・COS B などによる銀河の map (奥田) 30 分
- C・銀河中心部の dust の分布 (奥田) 10 分
- R・系外銀河のガスの観測 (稲谷) 30 分
- R・M31 の観測データ (松本) 40 分

・ 2 日 (9^h30^m A.M. より)

- R・星とガスの系の進化 (池内) 90 分
- R・星の生成 — 観測 — (佐藤修) 40 分
- R・星の生成 — 銀河スケールでの星の形成 — (藤本光) 40 分
- R・星の生成 — 星間雲からの収縮 — (中野) 40 分
- C・星間CO雲の fragmentation (金成・佐場野) 20 分
- R・星からガスへ — 観測 — (石田慈) 40 分
- R・星からガスへ — 理論 — (高原) 40 分
- ～18 時より — 新しい電波観測所の運営体制について —

・ 3 日 (9^h30^m A.M. より)

- R・系外銀河の形態・活動性について (小平) 40 分
- R・QSO (田原) 40 分
- R・銀河の力学 (松田) 40 分
- R・銀河の形成 (大道) 40 分
- C・銀河初期の熱的進化 (佐場野・吉井・長谷川・金成) 20 分

- ・ エクストロダクション (早川・森本・菊池、その他)

～16 時頃 終了予定

* 講演時間には討論を含みません。講演は時間内に終了していただき、充分に討論を尽くしたいと思います。(世話人 = 会津・海部)